

“春”の番号「あった！」

樽商大が合格者発表

小樽商科大は6日、2020年度前期日程の合格者を発表し、339人が待望の“春”をつかんだ。新型コロナウイルスの感染拡大を受け、恒例だった同大ラグビー部による胴上げが自粛され、受験生は思い思いに喜びをかみしめていた。

午前10時、同大学構内で合格者の受験番号が発表されると、合格した受験生は「やった」「見つけた」と保護者らと喜んだ。昼間コースに合格した札幌東高3年の湯浅美穂さん(18)は「ずっと頑張ってきたから、結果につながってうれしい。充実した4年間を過ご

したい」と抱負を語った。同大は5日、新型コロナウイルス



ウイルスの感染拡大を防ぐためとして学生団体に合格発表時の活動中止を要請。このため合格発表の場に在校生の姿はなく、応援団によるエールやサークル勧誘の光景も見られなかった。

同大によると合格者の内訳は昼間コースが301人、夜間コースが32人、専門学科・総合学科卒業生入試が6人。昼間コースの現役生の比率は79.7%で、前年度と比べ3.1%減少した。後期日程の合格発表は20日。(前野貴大) 自身の受験番号を探す受験生ら

働く

男性との賃金差 埋まらず



「仕事が少ない地方に住む女性は、性差と地域差と二重の格差があると思う」と話す上川管内の非正規公務員の女性



新型コロナウイルスの感染拡大による影響で、働く飲食

新型コロナウイルスに翻弄

生の子を育てる石狩管内のシングルマザー米沢真紀さん(47)は午前4〜7時は鮮魚関連工場、昼からは飲食店でパートで働く。飲食店ではその日の混み具合で早めに帰宅する日もあれば、終電間際まで働くことも。二つのパートで得られる収入は手取りで月14万〜16万円ほど。離婚した夫からの養育費月2万円は途絶えて久しい。

仕事と育児の両立支援や人手不足を背景に、道内でも働く女性が増えている。ただ、拡大しているのは非正規雇用で、男性との賃金格差も依然として大きい。専門家は社会に根強い男女の性別役割分担の意識が要因の一つと指摘する。女性の生き方を考える8日の「国際女性デー」を前に、道内の非正規職で働く女性たちの声を聞いた。(根岸真子)

増える非正規「正社員への道厳しい」

「何年働こうが、賃金が上がらないのは、自分が女性だからだと考えてしまう」と上川管内の自治体の非正規公務員の女性(55)は話す。生まれ育ったマチで結婚し、3人の子どもに恵まれた。最初の妊娠を機に団体職員を辞めて専業主婦に。その後、子どもを将来を考え、育児と両立しやすい地元で職を探し、15年前から現在の職場で働く。毎年契約更新してきたが、時給は

店では2月下旬から今月に予定されていた謝恩会や大型の宴会はすべてキャンセルに。店側は正社員以外のシフトを大幅に縮小した。このままいけば月数万円の減収は免れない。「雇用契約も曖昧な部分が多く、補償を受けられないのか」と不安げに話す。離婚を機にダブルワークを始めて8年。育児との両立を考え、その都度コンビニやスーパーなどさまざまな業種で働いたが、いずれも非正規職だった。「資格もない。正社員への道は厳しい」

総務省の労働力調査によると、2013年から19年で道内の女性就業率(15〜64歳)は59.3%から69.1%に上がった。雇用者は12万人増加したが、過半数の6万人が非正規雇用だ。道内の非正規労働者全体では女性が7割を占める。男女の賃金格差も大きい。厚生労働省の18年賃金構造基本統計調査では、男性の賃金を100とした場合、女性の賃金は73.3。08年調査では女性が67.8で、10年前に比べれば改善しているとはいえず、同等にはほど遠い。

女性の労働に「壁」を作り出してきた配偶者控除などの制度は、女性の労働参加をゆがめ、低賃金労働を許す要因となってきた。片桐さんは女性の就業率は高まったが、その半数は非正規労働者。女性の経済的自立といった視点からの改革が必要で、今後は職場における男女平等、雇用形態にとられない公正な待遇が求められると話している。

4月からは地方自治体の非正規職員の多くが、新設の会計年度任用職員に移行する。処遇改善が狙いで、この女性も期待するが、具体的な判断は自治体にゆだねられている。女性の自治体でも新制度開始に向けて条例を策定したが、詳細な説明はまだなく収入が増えるのかわからず、喜べない。周囲を見渡すと非正規公務員は女性ばかり。女性を使い勝手のよい労働力のように思われている気がしてならない。

根強い固定意識

小樽商大の片桐由喜字長特別補佐(男女共同参画担当)は、非正規雇用は女性が多いのは「仕事の場にも『男性が稼ぎ、女性は家庭を支える』という、男女の固定的な役割分担意識が今も根強く残っているからだ。女性を男性の補佐役と見なし、賃金を低く抑えてもいいと考えている意識は変わっていない」と指摘する。

緑丘で春掴む 小樽商大合格発表！

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、国立大学一般入試前期日程の掲示板による合格発表を自粛する動きが多い中、小樽商科大学(緑3・和田健夫学長)では、3月6日(金)10:00から、学生会館前で掲示板による合格発表を予定通り実施。

例年、応援団や各サークル・YOSAKOIサークル翔楽舞のメンバー等が会場に駆けつけ合格者を歓迎するが、今年は自粛し、受験者とその保護者約30名ほどが発表を見に来ただけの寂しい発表となった。



白い布で覆われた合格者番号の書かれたボードが、担当者によって運び込まれ、10:00に布が外され、同時に学校HPでも発表された。

昼間コース301名、夜間主コース32名、専門学科・総合学科卒業生入試6名、私費外国人留学生入試9名が合格。自分の番号を即座に見つけ

て喜ぶ受験生らの声が響いた。

小樽潮陵高校の高野遠さんは夜間主コースに合格し、「受かると思わなかったので嬉しい。大学では英語を学び、しっかりと話せるようになりたい。勉強に専念でき、ここまで来られたのは親のお陰。ありがたい」と喜んだ。

札幌平岸高校の多田優介さんと小松功顕さんは、昼間コースに合格。多田さんは、「けっこう勉強した。合格できて嬉しい。すぐに家族に連絡した。大学では英語を頑張り、フットサルのサークルに入りたい」と話し、小松さんは、「とてつもなく嬉しい。YOSAKOIサークルに入りたい。親やお世話になった友だちにも、合格したことを伝えたい」と話した。



同大では、3月17日(火)に予定していた学位記授与式(卒業式)を中止とし、4月の入学式の実施に関して今のところ未定。